

来て 見て 触れて

むかし探検

No.10
～江戸時代の交野～

徳川家康が1603年に江戸幕府を開き、天下太平の世が260年余り続きました。この平和な時代の中、交野も各地域に村が栄えてきます。これらの村々は、現在の交野の町の原型になっています。

徳川家康と交野

星田は徳川家康と深い関わりがあります。本能寺の変が起こったとき、家康は堺にいました。敵の追手から逃れ、本拠地の三河に帰る途中、星田の庄屋である平井家の協力を得たといわれています。

家康は星田山中（現在の妙見坂）の藪に身を潜め、一晚を明かし、星田村の道に詳しい者たちに案内されて大坂から逃げ延びたと言われています。このときの藪として伝えられているのが、妙見坂小学校の裏手にある「伝家康ひそみの藪」（写真下）です。



また、豊臣家との最後の戦いである大坂夏の陣のときには、家康は星田の新宮山（現在の星田公園）に陣を張り、平井家で宿を取って、戦に向かいました。この戦で家康は勝利し、徳川幕府はゆるぎないものとなりました。

新宮山には、家康が陣を張ったときに旗をかけた松が残されていました。当時の松は失われてしまいましたが、代わりに植えられた2代目の松の姿を見ることができます。

その後、この宿陣の話を後世に伝えようと、江戸時代の終わりの寛政11年に建てられたのが神祖宮趾之碑です。

この石碑の建立には幕府の中心人物も関わっており、幕府の権威を高めるという意図もあったことが伺えます。

立派な代官・庄屋屋敷

国の重要文化財である北田家住宅は私部村の代官・庄屋の屋敷として建てられました。民家としては、最大級の長さを誇る長屋門や立派な母屋など、豪華で壮大な代官屋敷の姿がそのまま現代に残されています。長屋門の外観を眺めるだけでも江戸時代の気分を味わうことができますが、毎年春と秋に長屋門や母屋の内部を一般公開しています。

また、寺村の名家である山添家は茅葺き屋根の立派な住宅です。



山添家

これは山添家が江戸時代に寺村の庄屋を務めていた当時から残されているもので、北河内の庄屋の住居として国の重要文化財に指定されています。現在は一般公開を中止していますが、その昔懐かしい茅葺き屋根は近隣の路上から眺めることができます。

札の辻橋

北田家住宅から北へ下ったところにあるのが札の辻橋です。法令などを掲示する「高札」がこの近くで立てられたことからこう呼ばれています。

また、ここで掲げられていた高札は、歴史民俗資料展示室で見ることができます。



キリシタン高札

当時盛んな河内木綿

当時の河内地域では、木綿生産が盛んで、河内木綿として有名でした。交野でも和綿の栽培から木綿製品の生産までが行われていました。

交野の木綿づくりは行われなくなりましたが、教育文化会館では機織り教室のみなさんが当時の技術を再現しながら日々作品を製作しています。



機織り教室の様子

交野の瓦が全国へ

江戸時代の交野の主要な産業の一つが瓦づくりで、現在の市役所周辺には瓦工房が軒を連ね、瓦造りの白煙が立ち上っていたといえます。

この名残として現在でも市内の大きなお寺などには江戸時代とほぼ変わらない屋根瓦が残されています。

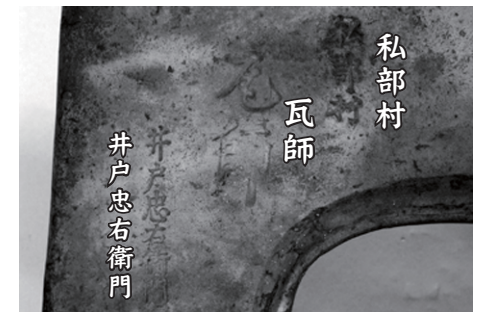
当時の交野の瓦師は自分の名前を瓦に刻印していました。これを見ていくと、市内に限らず交野の瓦が広く出荷されていたことがわかります。たとえば、京都の西本願寺や、神奈川県の小田原城にも交野産の瓦があることが知られています。

教育文化会館では、1月29日（日）まで江戸



寺村から出土した瓦

時代の交野を代表する産業であった瓦を紹介する企画展「交野の瓦」を開催しています。



名前の刻まれた瓦（私部村）

江戸時代を考古学してみよう

時代劇などを見ていると江戸時代は、遠い昔のことのように思われるかもしれませんが、当時の村々の道や水路・石垣・建物などは遺跡として地中に埋もれるのではなく、現在の町並みにも引き継がれています。

今回紹介できませんでしたが、倉治などの地区にも当時の町並みがよく残されています。みなさんも近所に江戸時代から続くものがないかを探してみましょ。

企画展「交野の瓦」

と き 1月29日（日）まで。午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

ところ 歴史民俗資料展示室

※月・火曜日、祝日は休館。

問い合わせ 文化財事業団（TEL893・8111）

歴史クイズ

問題

江戸時代の乗り物である駕籠は、中に人を乗せて2人が担いで運ぶ、現在のタクシーのようなもので、特に急ぐ時には早駕籠を使用しました。有名な「忠臣蔵」では江戸から赤穂まで（約620*）を早駕籠で移動しましたが、一体何日かかったのでしょうか？

- ① 4日間半 ② 9日間 ③ 14日間



北田家に残る駕籠

歴史クイズの正解者の中から抽選で1名様に、「ジュニア文化財ガイドブック」をプレゼントします。当選者の発表はガイドブックの発送に替えさせていただきます。

応募方法 1月31日（火）までに①答え②名前③住所④電話番号⑤あれば感想・質問を書いて文化財事業団広報プレゼント係（〒576-0052 私部2-29-5 e-mail:bunkazai@city.katano.osaka.jp）

問い合わせ 文化財事業団（TEL893・8111）

12月号 歴史クイズ答え

正解は、②でした。
解説：途中で作るのをあきらめてしまったのか、それともどこか別の場所に眠っているのか、千体そろっていない理由は分かっていません。

